

DBS グループ・ホールディングス(DBSM)

米中对立先鋭化は追い風。ブロックチェーン活用の機関投資家向け「DBSトークンサービス」を10月に開始

シンガポール | 銀行 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG DBS:SP | REUTERS DBSM.SI

- 2024/12期3Q(7-9月)は、総収益が前年同期比10.8%増、純利益が同15.0%増。米シティ台湾部門買収やウェルスマネジメント業務が貢献。
- 来期2025年度会社計画は、MASの為替管理政策が引締めスタンス維持の中で純金利収益が前年比横ばい。非金利収益は同1桁台の伸び率。
- トランプ次期政権下で米中对立が先鋭化すればアセアンに追い風。ブロックチェーン活用の機関投資家向け「DBSトークンサービス」を開始。

What is the news?

11/7発表の2024/12期3Q(7-9月)は、総収益が前年同期比10.8%増の57.53億SGD、経費率が同0.2ポイント低下改善の39.1%、貸倒引当金繰入額が同39.5%減の1.30億SGD、純利益が同15.0%増の30.27億SGDだった。米シティグループの台湾部門の買収効果のほか、ウェルスマネジメント業務含む手数料収入の増加が増収に寄与した。経費率の改善と不良債権処理費用の減少も増益に貢献した。前四半期比は、総収益が4.9%増、純利益が8.0%増、貸出の質について9月末の不良債権比率が同0.1ポイント低下の1.0%への改善だった。

3Qの収益の主な内訳は以下の通り。①商業銀行の純金利収益は前年同期比3.0%増の37.96億SGD。9月末貸出残高が為替調整後で同2%増加したほか、商業銀行の純金利マージン(NIM)が同0.01ポイント上昇の2.83%と改善したことが増収に寄与した。②商業銀行の純手数料・コミッション収益は同31.6%増の11.09億SGD。主力のウェルスマネジメント(WM)の同55%増(6.09億SGD)を中心に、カードが同12%増、ローン関連が同7%増と拡大した。③商業部門のその他の非金利収益は同3.6%増の5.17億SGD。④市場部門収益は同99.4%増の3.31億SGDだった。

How do we view this?

2025/12通期(来期)会社計画は、グループ全体の純金利収益が前期比横ばい(2024/12期1-9月実績:4.8%増)、商業部門の非金利収益が同1桁台後半の伸び率(同:23.4%増)、経費率が40%台前半(同:38.7%)としている。シンガポール通貨庁(MAS)は10/14、金融政策である為替管理政策を6回連続で現状維持とした。世界的な緩和方向とは異なり引締めスタンスを継続しており、シンガポールの銀行にとってはプラスだろう。

既に多くの多国籍企業が中国以外の国や地域へ供給網を分散する「チャイナプラスワン」を進めてきたが、米トランプ次期政権で米中对立が先鋭化すればアセアン諸国で生産拠点を広げていく必要がある。その場合、アセアンで拠点網を持つ同行のような銀行大手が恩恵を受けよう。また、同行は10月、機関投資家向けにトークン化とスマートコントラクト機能を統合した先進的銀行サービス「DBSトークンサービス」を発表。コンプライアンスを遵守しつつ、ブロックチェーンのメリットを活用できる「パーミッションド・ブロックチェーン」を使うとしている。トランプ次期政権も金融の規制緩和に積極的とみられ、追い風だろう。

業績推移

※参考レート 1SGD=112.81円

事業年度	2021/12	2022/12	2023/12	2024/12F	2025/12F
当期利益(百万SGD)	6,805	8,193	10,062	11,327	10,948
EPS(SGD)	2.41	2.89	3.54	3.96	3.83
PER(倍)	10.54	9.53	8.09	11.11	11.50
BPS(SGD)	20.37	20.10	21.88	23.23	24.44
PBR(倍)	1.25	1.37	1.31	1.90	1.80
配当(SGD)	1.09	1.36	1.74	2.00	2.00
配当利回り(%)	4.29	4.94	6.07	4.54	4.54

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(SGD) **2.00** (予想はBloomberg)
 終値(SGD) **44.04** 2024/12/10

会社概要

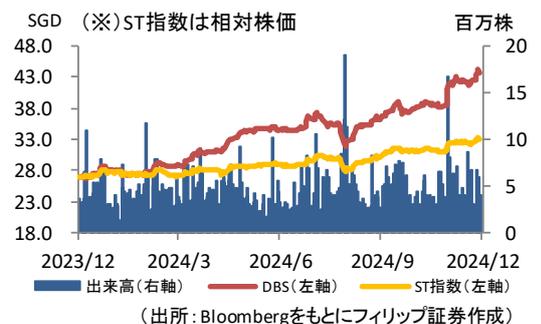
1968年にシンガポールの工業化推進と金融センターとしての発展に必要な開発資金の融資を行う目的のもと、「シンガポール開発銀行」として設立された世界的な金融サービスグループ。筆頭株主は政府系投資会社のテマセク・ホールディングス。世界の19市場に進出している。アジアの中心的な商業銀行として、中華圏、南アジア、東南アジアの3つの軸となる地域を掲げ、貿易や投資の仲介に取り組んでいる。

また、デジタル技術の活用にも積極的に取り組んでおり、雑誌「Euromoney」によって「世界最高のデジタル銀行」に選ばれ、「The banker」においても「デジタルバンキングで最も革新的な銀行」にも選ばれたことがある。

シンガポール本国では、マス・マーケットを含めた全顧客セグメントに商業銀行業務・投資銀行業務・証券業務のほか、リース・ファクタリングなどユニバーサルバンク・サービスを提供する。それ以外の地域では、コーポレート・投資銀行業務、中小・零細企業向けに信業務、ウェルスマネジメント業務に注力している。

企業データ(2024/12/10)

ベータ値	1.11
時価総額(百万SGD)	125,117
企業価値=EV(百万SGD)	-
3ヵ月平均売買代金(百万SGD)	194.5



主要株主(2024/12)

1. テマセク・ホールディングス	31.89
2. CAPITAL GROUP COMPANIES INC	4.92
3. VANGUARD GROUP	2.97

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
 kazuhiko.sasaki@phillip.co.jp
 +81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平14.1.25）」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。